**平成30年度第１回鎌倉市健康づくり計画推進委員会**

日時：平成30年７月30日（月）午後７時～８時40分

場所：鎌倉市役所　第４分庁舎822AB会議室

出席者：委員15人、幹事10人、事務局９人

欠席者：１人

**■開会**

鎌倉市健康づくり計画推進委員会条例施行規則を参照。

本日の出席者は14名で過半数超えのため、本推進委員会条例施行規則第３条第２項の規定により、委員会は成立している旨説明があった。

森本委員は所用のため欠席。

傍聴者なし。

**委員長からの挨拶**

只今から、平成30年度第１回「鎌倉市健康づくり計画推進委員会」を開会する。

この鎌倉市の健康づくり計画は平成28年から始まっているので２年が経った。

本日は平成29年度に、どのような取り組みがあったかということと、平成30年度に向けて現在行われている取り組みについて報告があると思う。

資料のとおり、神奈川県が行っている「かながわ健康プラン21」は、昨年度が５年目だった為、中間評価を行った。

また、国の「健康日本21」も昨年度中間評価を行っている。

この「鎌倉市健康づくり計画」も、５年目に中間評価を行う。

毎年どのような取り組みをしていたかということと、今後どのように進めていくかということを皆様と一緒に議論していきたいと思う。

議論に入る前に事務局から何か説明があれば、お願いする。

**事務局**

**資料について確認と説明**

事前に送付した資料１と資料２の内容を一部変更したので、差替えた旨を説明。

・【資料１】平成29年度「かながわ健康プラン２１(第２次)」｢鎌倉市健康づくり計画｣推進に係る取組実績

・【資料２】平成30年度｢かながわ健康プラン21｣｢鎌倉市健康づくり計画｣推進に係る取組予定

**■議事**

**委員長**

何か質問があるか。

議題（１）平成29年度実績報告について、事務局から説明をお願いする。

**議題（１）平成29年度実績報告について**

**事務局**

議題（１）平成29年度実績報告について、事務局から説明。

資料１を参照。平成29年度の実績報告である。

市で行った事業について、こちらにまとめている。

右側の「◎」や「○」がついている事業は、12の分野の中から、最も当てはまるものひとつに「◎」を入れ、その他当てはまるもの全てに「○」を入れる。

達成状況については、事業目的・実施回数・参加人数・効果等を考慮し、｢よくできた｣｢だいたいできた｣｢あまりできなかった｣｢できなかった｣の４段階で評価している。

その中の事業について、いくつか紹介する。

**ヘルシーポイントについて説明**

ヘルシーポイントとは、前回の委員会でも紹介したが、歩いた歩数や健康づくりイベントへの参加に応じてポイントを付与し、景品に応募することができる事業である。

・６月29日時点で登録者2,028人である。

・今年度中に、市内在勤者も対象にできるよう計画中である。

・今年度末には登録者6,000人になることを目標としている。

・歩くだけでなく、市民健康課のイベントや未病センターの利用等でポイント付与している。イベントを盛り上げることで、市民の健康づくりへの意識をさらに高めていくことができたらと思っている。

・９月に抽選会を実施する予定。

**未病センターかまくらについて説明**

こちらは、前回の委員会で皆様に見学等をしていただいたところだが、こちらはいくつかの健康機器の測定を行って、自らの健康状態を見える化し、保健師や、栄養士等が改善へのアドバイスを行う場所となっている。

・今年度は未病センターの周知の為、町内会にご協力いただき、パンフレットを全戸配布する予定。

**健康づくり通信（朝ごはん）について説明**

資料１参照。

健康食育情報の発信のひとつとして「健康づくり通信」を発行している。

昨年度は３回発行した。

市民の方への健康づくりに関する情報発信、健康づくり計画の周知を目的としている。

健康づくり計画では、子ども期の重点目標が食生活・栄養の分野であることから、年に数回発行している健康づくり通信の中で、簡単にできる朝ごはんメニューの紹介を行った。（例：よくかんで美味しい黒豆しらすおにぎり、レンジでもできるみそだまでつくる簡単味噌汁など）今年度も残り１回は朝ごはんメニューの提示を行い、その後は野菜がとれるレシピに変更する予定。

**委員長**

議題（１）について、何か意見はあるか。委員の皆様からも市と協同して実施している事業があれば、紹介していただきたい。

**委員長**

「◎」が付いているものは他にもたくさんあるが、今紹介した事業は、その一部を抜粋したものか。

**事務局**

はい。そうである。

**委員**

「◎」や「○」の誰が評価したものか？何か基準があるのか？

**事務局**

資料の一番左側の表に書いてある、その事業を主に行っている課に照会をかけ、当てはまるもの全てに「○」、最も当てはまるもの１つに「◎」という形で、こちらの評価の１～４の「よくできた」「だいたいできた」のところは、そのパーセントに応じて評価を行っている。

**委員**

まだよくわからないが、この◎や○というのは、誰がどのように基準を決めているのか。

**事務局**

事業を行っている課で判断。主に重点的に取り組んでいる項目について「◎」を付けている。

**委員**

ということは、主観的なものということか？

ヘルシーポイントについては、どのようなところを評価しているのか。

なぜヘルシーポイントは◎になっているのか？

**事務局**

この「◎」については12項目のうちヘルシーポイントについて、主に身体活動の取り組みに対して重点的に行っている事業ということで◎を付けている。

どのくらい達成できたかの指標は、事業によってさまざまであるが、ここでは達成度はよくできたということで評価をしている。

**委員**

目的と結果が混ざってしまっている。行わなくてはいけないもの、行わなくていいものなど、反省を踏まえて、見直してみてもいいのではないか。

**事務局**

○や◎については評価ではなく、どの分野にその事業が当てはまっているかということを表している。例えば、資料１高齢者いきいき課の「高齢者への配食サービスの委託」をご覧いただくと、「高齢者の健康」に一番寄与しているということで◎としている。

それ以外でも、生活習慣の改善の促進という意味で「食生活・栄養」にも当てはまるということで○を付けている。

表の「達成状況」については、それぞれの主観になっているが、内部の検討会で、全く何の目安もなく、決めてしまうとただの主観になってしまうため、一応、統一して、それぞれの項目で何％以上できたら、という目安は作って照会をかけた。

それから、「かながわ健康プラン21」の評価をする為に、市町村における健康づくりに関する事業をまとめて県に報告しなければならない。

結局、健康づくり計画の推進に係る取り組みというのが、「かながわ健康プラン21」の推進にも係ってくるということで、「鎌倉市の健康づくり計画」の実績と、「かながわ健康プラン21」の実績を別々に評価していくのではなく、１度に取り組み実績と予定を、それぞれまとめていくような形にした。

もう１点、広くいろいろ行っているので、もう少し絞ったらどうかと、副委員長からご指摘いただいているが、各課で健康づくりに寄与するような取り組みは、どのようなことを行っているかということで挙げている。それぞれの課で手段と目的が異なる。

市民健康課も市民の健康づくりというのが一番の目的になると思うが、例えば高齢者の配食であれば、高齢者の低栄養の予防である等、そういうところに主の目的がくるので、これらの事業は絞った方がいいのではないかと意見をいうことは、こちら側からは難しいという状況である。

**委員長**

この資料の一番左側の項目は「かながわ健康プラン21」に合わせているのか。

**事務局**

「かながわ健康プラン21」に合わせている。

**委員長**

そうなると、この「○」と「◎」は、このうちのどれを最もよく取り組んだかという評価で、実際にできたかというのは、また別の話ということか。

**事務局**

はい。

**委員長**

他にどなたか質問や意見等はあるか？

**委員**

評価というのは、どのように出すのか。

PDCAサイクルの中でのアウトカム評価にあたるところである。それは、誰がどのような方法で決めるのか。

評価があって次の改善点が出てくる訳であり、また新たにプランニングする時に、評価というのをきちんと示しておかなければならないと思う。

**事務局**

策定した時のような大掛かりなアンケート調査はなかなかできないので、計画本編を作る際に、モニタリングしていく項目と、その評価項目、５年ごとにきちんと数字を取って、評価するという項目というのは分けている。

その評価項目については、今度の中間見直しをする際に、何らかの方法で調査をしていこうと考えているが、それ以外については毎年評価していくというよりは、モニタリングをしていくというような形で当初策定をさせていただいている。

**委員**

評価方法は決まっているのか。

評価方法は、後付で決めるというものではなく、計画の最初の段階で、こういう形で評価するということが決まっていなければならない。

そこをどのように評価するのか。

**事務局**

本編の120ページから計画の評価ということで、評価項目一覧を載せている。

濃いピンク色が付いているものについては、５年ごとに数値を調べて目標値に近づいているのかというところを評価していく。

それ以外のものについては、まずモニタリングをしていく。

毎年、評価というところでは策定の時にしている。なかなか数字の上下や増減等のあたりが、非常に評価がしにくいというといころがあり、このような形になっている。

**委員長**

５年後には行うか。

**事務局**

５年後の見直しの際には行う予定である。

**委員長**

毎年調査するのは不可能に近いので、このような形でよいか。

**委員**

全部でなかったとしても、例えば何回か回数が決まっていたりするもの、カウントできるものは知っておいたほうが良いと思う。

全部を調査するというのが難しい今の状況もわかるが、いきなり５年後目標を達成できなかったということになるよりも、緩やかに数値が下がっていったというトレンドを追っていかないと、その時どのような方向にいくのか、方向性も全く見えなくなるので、一定の目標を決めておいたほうがよい。

**委員**

例えばヘルシーポイントは、2,028名から6,000名と、かなり明確な数字値標が出ているが、一方で時期の欄に、随時と書かれている事業もある。この内容を見ていくと、何回やれば良いというものでもないと思うので、その辺りの表現方法を考えたほうがよいのではないか。今のままの書き方だと、誤解を生むと思う。

**委員**

まず該当者のところに参加者数という書く欄があるのだから、このところに何人見込んで何人だったかは書いておいた方が良い。

後々、その年としてのトレンドとか、たぶん数字は掴まれていると思っているので、入れておいた方が、後々の資料として役に立つ。

ちなみに、先ほどのかまくらヘルシーポイントの目標だが、８月までに6,000人ということか。

**事務局**

年度末までの目標である。

**委員**

参加者などの数を数えるのは結構な手間が掛かるのか。できるならそれで良いが、あまり負担を掛けるのも良くないと思う。

**事務局**

健診・検診の受診率などは、数値を出している。ほかにも、県への報告などで出しているものがあるので、可能なものは入れていく。

**委員長**

他に意見はないか。

要するに、中間評価の前までに、できるだけ数字にできるものは出してもらう。

現在、どのような状況か把握できるのが望ましいと思う。

なければ、議題２に移る。

**議題（２）平成30年度取り組み予定について**

**事務局**

議題（２）平成30年度取り組みについて説明。

【資料２】平成30年度「かながわ健康プラン21」「鎌倉市健康づくり計画」推進に係る取り組み予定を参照。

こちらは資料１と同じような形で、各課から健康づくりに関する事業をとりまとめたものとなる。

この中から、今年度の主な取り組みについて、いくつかご紹介する。

資料２の２ページ目、上から２つ目の「未病センターかまくら」について説明。

今年度また新たに行っていくことがいくつかあるので、そちらについてご紹介をする。

**未病センターについて説明**

未病センターかまくらでは、健康測定と、保健師または栄養士によるアドバイスや、情報提供等を行っている。

一日15人程度が利用されている。オープンから現在まで延べ約2,000人が利用している。未病センターの中だけではなく、昨年から引き続き、市民健康課が健康づくり応援団として地域の自治町内会やイベント等に、未病センターの機器を持ち出して健康測定ができるようなイベント形式のものも行っている。

地域では、「未病センターについて案内して欲しい」「福祉センターは遠いから出張で来てくれて嬉しい」「測ったことがなかったから、自分の健康について知る良いきっかけになった」「なるべく歩くように心がけて、定期的に未病センターに行こうと思う」などの声をもらっている。

高齢者の利用が多い現状だが、介護予防に繋がっていると感じている。小中学校等のイベントでも計測を行っているので、若い世代にもさらに周知していきたい。

今年度は、薬剤師会さんからも早速ご依頼をいただいている。市民健康課から健康づくり応援団という形で未病センターの機器を持って行き、薬剤師会のイベントに出店させていただく形である。

また、未病センターの入り口にはフードモデル（食品サンプル）を展示している。食事について考えていただく、きっかけ作りをしている。通りすがりで見ていってもらったり、健康測定後、食事の改善点をお話する際にフードモデルを見てもらいながら、量などを確認していただくために使用したりしている。

初めは、１日３食で2000キロカロリーになる食事の展示から始めた。今年度は、いくつかテーマを変えて展示をしていく予定で、現在３パターン目を展示している。

２パターン目は、朝ごはんをテーマとし、ご飯バージョン、パンバージョン、シリアルバージョンの展示を行った。

３パターン目は、カルシウム強化をテーマとし、朝食・昼食・夕食の展示を行っている。骨密度が低い方が多くいらっしゃるので、バランスよい食事の中で、カルシウムも十分に摂れる内容とした。

**健康支援プログラムについて説明**

市町村が未病センターを設置する市は、神奈川県の健康支援プログラムという企業がCSRの一環で行う無料講座のプログラムの利用が可能となる。

今年度は東洋ライスの親子を対象としたお米に関する講座や、雪印メグミルクの親子対象の骨やカルシウムに関する講座や、カーブスの講座を実施する予定で、多くの方に未病センターを知っていただきたいと思っている。

**栄養サポートステーションについて説明**

神奈川県立保健福祉大学が実施している｢未病を改善する栄養サポートステーション｣という事業がある。

参考資料６参照。こちらは未病センターに来ていただき、食事チェックができるというようなプログラムである。今年度市では、未病センターの中は場所が狭くて難しい関係で、子ども向けの育児相談の場所に、お母さんを対象とした食生活のアドバイスという形で、２回来ていただいて実施をする予定である。ここまでが未病センターに関する取り組みの紹介となる。

**ヘルシーメニューの検討について説明**

資料２の２ページ目参照。（仮称）｢かまくらヘルシーメニューの検討｣について説明。

今年度から（仮称）「かまくらヘルシーメニューの検討」を始める。こちらは、健康経営を進める中で、市内飲食店向けの健康的な食事の認証制度を設け、健康的な食事の普及啓発を行うものである。詳細については、現在検討中だが、野菜の摂取量増加やバランスのとれた食事を摂る回数の増加につながるような内容にしたいと考えている。

**啓発イベントについて説明**

資料２の２ページ目参照。健康づくりフェスタについて。

５月26日～27日に由比ガ浜海岸でビーチフェスタという商工会議所主催の事業に参加した。こちらは海に関するブースが出店されるということで、フラダンスのショーがあるなど、お祭り形式のイベントになっている。

子どもから50歳代くらいまでの世代の参加が多く青壮年期をターゲットにするには良い機会であった。

延べ547名の参加。子ども向けには海や健康に関するクイズを実施、大人向けには貧血測定等を実施した。

最後に資料２には記載していないが、多くのところで鎌倉市の健康づくり計画を配布していきたいと考えているので、今年度は幼稚園、保育園に了解をいただき、お便り帳に挟める形で全家庭に、健康づくり計画と、ウォーキングマップ、かまくらヘルシーポイントのチラシをセットにしたものを配布していきたい。大体4,000弱くらいの配布数になる予定である。

**委員長**

説明にあった今年度の取り組みについて、委員の皆様から何かご意見・ご質問はあるか。

**委員**

ヘルシーメニューの中で、健康経営というキーワードが出てきたが、今年度中に始めるということか。

**事務局**

鎌倉市でも健康経営に取り組むということで、情報収集を行っているところであり、今年度中にスタートさせたいと考えている。

簡単に健康経営についてご案内すると、企業が従業員の方の健康に配慮して、それによって生産性が向上したり、企業価値を高めたりすることを目指す経営手法ということで、市役所自身はもちろんのこと市内の事業所にも積極的に取り組んでいただき、市全体の健康づくりを高めていきたいと考えている。

市民健康課は対象が市民なので、将来的には健康経営が市民の方の健康づくりに繋がっていくことで、本当の意味で鎌倉市全体が健康になっていくような体制を整えていきたいというように考えている。

**委員**

健康経営とは直接関係ないような内容であると感じた。

**事務局**

どちらかと言うと、将来的に市民の方の健康にも繋げていきたいということを考えた時に、鎌倉市は飲食店の企業もたくさんいらっしゃるので、ヘルシーなメニューを作っていただいて、それを市民の方が召し上がることによって、健康への配慮といったところに繋がっていくような仕組みを作ることができれば、市民の方の健康にも上手く繋げていくことができるのではないかということで検討している。

**委員**

これだと割と小さな事業所で、食堂を持っていないところと周りの飲食店とが提携して、そのメニューを作ってもらうということである。健康経営については会社の中の従業員を対象とするので、少し意味合いが異なるか。もちろん一般市民を対象にしても良いのだが。

**事務局**

そういったところも、どのように進めていけばよいのか、わからない段階にある。是非こういった場で、ご教授いただいて、今、先生がおっしゃっていただいたようなアイデア等も取り入れて、盛り上げていきたいと考えている。

**委員**

未病センターの測定機器には、何があるのか。

何か特徴はあるのか、どこに重点を置いているとか、健康といってもいろいろある訳で、年齢層も含めて伺いたい。

**事務局**

身長・体組成測定、骨密度測定、血圧測定、ヘモグロビン量・貧血測定、血管年齢とストレス測定の５種類を計測ができる機器がある。

狙いとしては、青壮年齢期の方が健康づくりのきっかけとなるように、生活習慣を改めるポイントを１つ、２つ見つけていただきたいという思いがある。

ただ実際に未病センターに来てくださるのは、60代以上の方がかなり多くなっているので、その機器をなるべく外に持ち出して、町内会やイベント等の若い方が集まるところで、多く測定を実施してくというような形で実施している。

**委員**

若い人をターゲットにするのは難しいと思う。

高齢の方も難しいと思うが、最終的な目的はどこにあるのか。

今は、青壮年の方に対して話されたが、高齢者の方の割合が多いということで、健康寿命の延伸等、そういったことを目的として、この“未病”というのは掲げているのか。

**事務局**

今、おっしゃっていただいたように健康寿命の延伸というのが一番の目的になる。

**委員**

別の問題になってしまうが、この健康寿命の延伸だけでなく、いつまでも健康で働いてもらおうというのが大事である。就労支援等も含めて、そういうところまで持っていけば、良いのではないかという考えである。

**事務局**

資料２、１ページ目の一番下の欄参照。

取り組みの中にも書いてあるが「生涯現役促進地域連携事業」ということで、高齢者いきいき課で、今そのような取り組みを懸命にやっているところである。

まだ働きたいという意思を持っている方々に対して、いろいろな研修を行ったり、説明会を行ったり、そのようなところで実際に就労に繋げていくというような事業を推進していくところもある。

そのような意味で、この「生涯現役促進地域連携事業」を挙げていただいている。

**委員**

未病とは産業振興という部分がある。こういうことと結びつけて、延長線上でこういうものがあると、税金も入ってくるし良いのではないかと思う。

せっかく未病ということをするのであれば、目的をしっかり持って行う方が良い。

**委員**

同じような意見だが、例えば、未病センターかまくらに行くと雇用の話が聞けるとか。

ヘルシーメニューを考え提供してくれた飲食店には、フィードバックをするなど、健康や人間のコミュニケーションを取るハブになるような役割を市役所がすると、それが結局健康に繋がっていき、結果、あまり参加していない人も、参加するような興味を持ってもらう等、それらを上手く行っていくと良いのではないか。

新たな健康モデルを作っていくというよりは、繋がりをどんどん深めていくような戦略を練ってもらえると良いのではないか。

その中には教育もあるだろうし、こういうお祭りみたいなものもあるだろうし、そのような感覚が良いのではないか。

そのアイデアとか、成長性ばかりが大事ではなくて、おいしかった等の感想や、お店同士でランキングを作る等、そのようなことをしていくと楽しいかもしれない。

ただ単に何もせずに健康に生きていくより、やはりできる限り働いてもらうことが、健康にも繋がるし、一石二鳥になるのかなと思う。

**委員**

言葉は少し悪いが、今は未病センターに暇なお年寄りが来ているというイメージである。

それでは、少しどうなのかと思う。

もう少しやはり、いろいろな方に来ていただけるようにしないといけない。

やはり努力しなければならない。

**委員**

説明にある町内会に行くというのは、町内にどのような形でアピールしているのか？

私どもの町内会や、有名な町内会にしても、特に講座で市民健康課の人達が来て、説明したようにいろいろなことをやってくれるという話は、あまり聞かない。

私どもの深沢地区社協は、配食も毎月行っていて、われわれも配膳からいろいろと手伝いをしている。

この資料には、一応地域包括支援センターや地区社協と一緒に血圧測定などを行っているとなっているが、実情、地域包括支援センターの人が来て、測定などを行ってくれているという印象である。こちらから言わなければいけないのかわからないが、市の市民健康課の人達が何かを行ったことは、今までにない。

もうひとつ聞きたいのは、今、子ども会が潰れかかっていて、夏休みに町内会でラジオ体操を行って欲しいという声が挙がっている。今の学校はラジオ体操を教えていない。スポーツ振興会でも、運動はラジオ体操が基本であると言われている。そのようなメニューが資料になかったが、その辺のことも気になる。

**事務局**

一度、何かしらの繋がりがある等で、そういったところから、講座依頼をいただくことが多いので、そのような繋がりで広がってきている部分が大きいと感じる。

今まで、こちらから町内会に挨拶回りして講座をしますということは、確かにしていない。

ただ、高齢者のお食事会に関しては、かつては市民健康課でも伺わせていただく時期があったが、地域包括の方に高齢者の方の健康づくり等を移していったところがあり、その辺は、こちらの方が減っていったという、現状も少しあると思う。

**幹事課**

お話にあったラジオ体操については、各小学校区に地区スポーツ振興会というのがあり、そこを通して、今、夏休みについてはラジオ体操を行っていただいている。

私どもから、ラジオ体操のカードを配布し、子どもが中心になるが、各学校以外の公園等に集まっていただいて行っている状態である。

大体、実績として延べ３万人近くの方が行っている。

そこをスポーツ振興会と一緒に、どのようにその辺を広げていくか。

県は、「みんなで朝ラジ!!」プロジェクトというのを行っていて、先日も七里ガ浜町内会と七里ガ浜東町内会を中心に、そのプロジェクトの中で、先生を呼んで、それでラジオ体操の運動の仕方をきっちり教えていただいた。

その先生の話を聞くと、ラジオ体操というのは、一つ一つの動きに、いろいろな効果や目的がある。それを行うことで、本当に汗をかくものであると伺っている。

この辺りは、私どものスポーツ推進部、それも地区ごとに４人ずつおり、講習会を行って、ラジオ体操も各スポーツ推進員が勉強しているので、それを地区の方へ広げていくということであると思っている。そこはこれから町内会、地区スポーツ振興会と推進員と一緒になってラジオ体操を広めて行くということで努力している。

**委員**

話は戻るが、未病センターの時間が３時までということで、若い方がなかなか来られない。

今後、その時間等、例えば土曜日等。土曜日は若い方もいらっしゃると思うが、そういった変更のようなものはあるか。

**事務局**

時間の変更等については、職員の配置等の問題もあり、なかなかすぐに延ばすということは難しいが、未病センターを開始するにあたり、お昼休みに利用するだろうということで、未病センターで昼休みは作らず、前後でスタッフを交代させ、その中でも福祉センターをご利用された方々が、前半のサークルが終わった後に寄って帰る等の効果はあった。

しかし、今は、前に行ったから大丈夫という感じで、少し尻すぼみ状態ではあると感じる。

私どもの仕事をしていると、なかなか人を待っていても来ないというところがあり、福祉センターを知っている方には、足を伸ばしていただける。図書館の帰りにということもあるが、まずPRすることの方が先だと思っている。

今はまず、土日は地域のイベントに出られる時は出て行き、未病センターはこういうことを行っている、健康づくりのお手伝いもしているというPRをするところから進めている。

**委員**

シルバー人材センター支援事業というのは、企業側から、こういった人材が欲しいというような話を直接鎌倉市に伝えると、マッチング等を行っているのか。

**事務局**

シルバー人材センターでは、働きたい人がすでに活動をしている。先程説明した生涯現役促進地域連携事業については、働きたいと思うが、まだ準備ができていない方の為に、研修会を催したり、最近ではパソコンやICT等がどんどん出てきているので、それに追いついていけないという不安を解消しながら、実際の就労に持っていこうというという少し手前の準備のところをお手伝いしている感じである。

また、未病センターの件だが、いろいろな場所の問題等あったが、鎌倉市の場合は、福祉センターの方に設置している。

市役所に来るということ自体、青壮年期の方は、転入や転出等で市役所での手続きがなければ、なかなか来ないという実情もある。県内には未病センターが３０数箇所あるが、民間の企業が開けているところもある。例えば第一号は小田原のカーブスだった。

そのような民間の施設で開けていただけるようなところで、他の地域等もう少し若い方々が行けそうな場所で、登録してもらい、広げていけないかと考えている。

特にこの秋９月の頭から、ほとんど毎週、学校だったり、幼稚園・保育園だったり、地域のお祭りであったり、いろいろなところに出張で未病センターが出て行くことになっているので、先程話した通り、どちらかと言うと若い世代にはイベント等で、周知を図っていきながら、一方で市直営ではなく、どこか企業が行ってくれるものはないかというのを併せて探って行きたいと思っている。

**委員**

今の話は正論だと思う。例えば夜遅い時間にできないと言ったら、民間に任せ、土日も極端な話、使っていない市役所のエリアを借りる等、市役所が遠かったとしても、例えば大船ルミネの市役所のエリアの一角を使う等、行う手法はいくらでもある。

それを全部、市役所が行ってしまうとなると、なかなか制限があると思う。

任せるところは任せて、やはり裾野も広げて行かなければいけないとなると、そういうことしか手はないと思う。

健康経営で各企業を指名して、このエリアを貸して欲しいということができるはず。そういう活動をもっとアピールして協力を乞う方が、もっとサイクルも回るし、各社の社会的貢献度が上がり、銘柄としても認められるという感じになると思う。

そこの辺りをもう少し考えても良いと思う。

**委員**

ときどき駅で行うのはどうか。この未病センターは行っているか。

**事務局**

駅は使っていない。

**委員**

駅は、やはり動線を考えると、日曜日だと家族連れも多い。だから結構若い方も来るので、医師や歯科医師の方にも協力してもらい、相談のようなものも受け付ける等、やり方は工夫すれば、いくらでもあると思う。

それを市役所が行うかどうかは、別問題であるが、やはり考えなければいけないと思う。

**事務局**

駅は、市でも自殺対策の普及啓発等や、ピンクリボン関係で、大船の改札・ルミネの前の広場等の使用を打診したことがあるが、収益が上がる催し物しか貸してもらえない。

歯科医師会の方が、“いい歯の日”のイベント関係で、たくさんの人を集客できる場所ということで、その場所を交渉したが、収益に対して何パーセントの使用料というものを設定しているので、何も収益が上がらないような催しでは借りられなかった経緯がある。

ティッシュ配り等をする場所は、それぞれの駅に協力をもらっている。

藤沢駅のコンコースは、貸出をしていてお店を出したりもしているが、大船駅、鎌倉駅は、それほどスペースがないので、できない。

**委員**

今では、少しわからないが、前に大船駅の踊り場で、そのようなことを行ったことがある。数年前、その当時は貸してもらい行ったことがある。

**委員**

今は、募金でも貸してくれない。

**事務局**

すごく厳しいようだ。

やはり人の流れがあるので、皆さんご覧になると思う。

**委員**

人の流れがあるから、もってこいの場所である。

**委員**

売り上げが大きいらしく、収益がないのはお断りということらしい。大船ルミネでは貸し出すことが、大きな収入源になっているらしいので。

**事務局**

ご指摘があった健康経営について、先程申し上げた通り、本当に手探りの状態で、この後、できればセミナー等に繋げていきたいが、鎌倉市としても認証制度を作っていきたい。

今、経団連等いろいろな団体や協会健保等でも、健康経営を行っている企業の表彰を行っているので、そこに繫がるような形の認証制度を作っていきたい。

その中に鎌倉市独自の内容として、市民の健康づくりに寄与しているかというような項目を経団連等、今認められている基準にプラスをしてできなかどうか、我々の中では考えている。

そういう形で進めて行き、市民の健康づくりに、いろいろな企業に協力をしていただけないかというところに持っていきたい。

実際問題、薬局、日本調剤が取組んでいたり、グループで取組んでいたりするところがあるので、その辺から広げていければと考えている。

**委員長**

他に、どなたか意見はあるか。

**委員**

総合的に言って、平成30年度、健康づくり計画は何を行うのか見えてこない。

**事務局**

健康づくり計画において、平成30年度に特化していく事業は、市民健康課が行っているヘルシーポイントで、健康づくりをさらに促進させていくことや、健康経営に乗り出すというところである。それ以外に本年度、重点を置くところは、今のところない。

ただ、未病センターの活用等については、さらに広げていかなければならないとは考えている。

**委員**

担当している課が異なっているだろうし、縦割りのようなところもあると思うが、何でも事業を行えば良いというものではなく、似ているものはまとめて、効率良く、もっと横の連携を取ったほうがよい。

これだけ見ても、いろいろな事業があってわかりづらい。

**委員**

例えば、ヘルシーポイントは、すごく良いと思う。ヘルシーポイントは、運動するとか、良い食べ物を食べるとか、鎌倉ヘルシーメニューを食べるとか、そういう自分の行動に関して、ポイントを付けるような形にして、今度その結果を測りに行こうというような流れを作り活動し、その間に情報交換できるようなしくみができると良い。例えば鎌倉ヘルシーメニュー認定等の中で、この食事がおいしかった等とコメントできると良いのではないかと思った。

参加型を取っていくのと、何を目的にヘルシーポイントを行うかを示さないと、混乱すると思う。せっかく約2,000人いるので、戦略を考えた方が良いと思う。

**委員長**

ヘルシーポイントは、もう少しヘルシーメニューを食べたり、未病センターに行くとポイントが付与されたり、いろいろな所に行ってヘルシーポイントをもらうようにする方が良いということか。

**委員**

できればボランティア的な仕事の方が良いと思う。

**事務局**

市民健康課は、献血を行っているが、なかなか今、献血をしてくださる方がいらっしゃらないので、本当は献血をしたらポイントを付けるとか、そういったことで市役所や市民健康課の事業等にうまく繋げていきたいというのはある。

あとスポーツ課も健康福祉部に今年から入ったので、そういった事業も盛り上がりの一つに入らないかなと思っている。

**委員**

仲間を連れて来るとか、70歳以上の方を連れて来ると10点とか、ボーナスポイントをもらえるとかできると良い。

**事務局**

本当は、そのようなお友達紹介ポイントみたいなものを付けたいと考えていたのだが、事業者との相談の中で、アナログな形の対応になってしまうということだが、なんとか対応したいと考えている。

**委員**

ラジオ体操は、やはりポイントをもらうことは嬉しかった。ポイント欄を埋めようと思っていた。何かあのような形でできれば。

**委員**

賞品があるのは嬉しい。

**委員**

私の子どもも、ラジオ体操に行っているが、お菓子等いろいろもらって来る。それがやはり楽しみであるようだ。ポイントもそうである。

**委員**

子どもだったら、特にそうである。

最後の日は、必ずいろいろもらえるから最後の日は来る子が多い。

**委員長**

他によろしいか。

なければ、次に委員の皆様も、それぞれ啓発活動をされていると思うので、まず歯科医師会から紹介していただきたい。

**委員**

歯科医師会では年に２回イベントを行っている。６月「歯と口の健康週間」に、虫歯予防デーの無料歯科相談会を開催している。本年度は、大船学習センターで行った。

それから例年、11月に「いい歯の日」無料歯科相談会を、鎌倉学習センターの１階の広場で行った。こちらは外のイベントなので、雨が降ると中止だが、今のところ中止になったことは一度もない。

課題もいくつかある。６月のイベントは例年、大船のイトーヨーカドーで行っており、約300名来ていただいていたが、４割くらいが横浜の方だった。そこで今年、大船の学習センターで実施したところ、半分くらいの人数になってしまったが、全員市民だった。市民に実施することを目的としているので、こちらの場所で良かったと感じた。11月のイベントはやはり観光客が非常に多い。もう少し市民に周知したいと思っている。

**委員長**

続きまして、薬剤師会からも紹介をお願いしたい。

**委員**

10月に「薬と健康フェアかまくら」を、年に１回開催している。

体組成測定、脳年齢測定、骨密度測定の実施、薬剤師による薬相談や管理栄養士による栄養相談の実施など行った。

こちらも歯科医師会と同じで、生涯学習センターの入り口で行っているが、おととしだったか嵐の日にあたってしまって、室内に機器を持ち込んで行ったが、その他の年は晴天で暑く、お年寄りの方の参加が多いので、体調を崩さないように気を配るようにしている。

今年は10月28日の日曜日に行う予定になっている。大体200名から300名くらいの方が来てくださっている。

今いろいろお話を伺っていると、やはり身近なところで、お薬の話や、相談会ができればいいのかなと感じた。

薬剤師会では、地域の懇親会等に、近くの薬局から出張するなどして、地域での活動を進めていけたらということを、現在話している。

**委員**

私どもは、現在市民向けというのは難しいところだが、企業内の健康経営に関することで、紹介させていただく。

実は我々従業員の健康面の強化をしていて、運動しなさい、メタボの対策等をしなさいと言いながらも、指標がなかった。

昔、健康保険組合の収益が非常に良かった時に、従業員一人一人に対して体力測定会を行っていたが現在はなくなってしまった。

健康保険組合では行わず、各事業所が行いたいのであれば勝手にやりなさいという感じで、ずっと見放されていたところはある。その中で、やはり我々も運動しなさいとはいうものの、自分の体力がどうなっているか全然わからないということで、約20年ぶりに全従業員に体力測定を行った。結果は大体想像できると思うが、50歳代が一番50歳代の平均体力年齢に近く、驚くことにどんどん落ちていて、20歳代の平均体力年齢が43歳であった。

弊社の場合、20年後、彼らが40歳になった時どうなるのかという危機感を我々やトップクラスも危機感を持っていて、また20歳代の本人達にも危機感が生まれ、やはりそれではいけないということになった。今年度も、もう一度若手に対して体力測定を実施し、いろいろなセミナーを行ったり、各事業所にその無料券を配る等、さまざまな施策を打っている。やはり危険な状態であると気付いた人は、運動しているというのは見えている。これを鎌倉市に置き換えると、このような未病センターを上手く使ってもらって、自分の体力年齢はこうだから、今後こうありたいと思えるよう、見える化していけると良いと思う。

併せて、そう言いながらも、運動する設備がなく、ないものは自前でなんとかしなければというところもあるが、今、別の事業があり、それができない状態である。機会があれば鎌倉市が移転した際には我々も何かできればと思っている。そのような形で是非ご協力させていただきたい。

**委員**

私達は直接、健康に関するイベントというものは行っているわけではないが、今年の５月26日と27日に由比ガ浜海岸で、海をモチーフとした鎌倉ビーチフェスタというお祭りを開催し、若い方から年配の方まで集客があるということで、市民健康課にブースを出していただいた。

次に、まだ計画の段階だが10月６日と７日の土日に、市役所の駐車場をお借りし、オクトーバーフェストというお祭りを開催させていただく。例年来場者数も２万人程度となっている。今年は市民健康課からブースを出していただくということを前向きに検討している。

**委員長**

委員同士でも、それぞれ取り組まれているが、提携・連携できるところがあればしていただきたいと思うので、市の方にも連絡をお願いする。

では、続けて事務局から何か説明はあるか。

**事務局**

先程、健康経営等を簡単にご案内したが、本年度の取り組みの中で、かまくらヘルシーポイントにおいて企業や事業所の参加が可能となる。

そちらに是非積極的に参加いただいて、健康づくりや企業の健康経営というところで、ヘルシーポイントが少しでも貢献できればと考えている。

また、健康経営の推進のところだが、実際経済産業省がセミナー等で話をしているが、人口が減少しているイコール生産人口が、これからどんどん減っていくということで、先程委員からもお話があったが、なるべく健康で長く働いて欲しいということを国としても考えている。簡単に言うと生涯現役でギリギリまで働いて欲しいと経済産業省も言っているので、鎌倉市としても健康経営を進めることで、たくさんの方が長く元気に働き続けることができるように取組んでいきたいと思う。

特に、中小企業だと、例えば、１人の方が倒れてしまった場合や、健康を害してしまった場合に非常に影響が大きく、また、経営者の方が健康を害してしまうと、会社の存続に響いてしまうということがある。鎌倉市には中小企業がたくさんあるので、そういったところも含めて啓発を進めていければと考えている。

それから、民間の企業に是非ご協力をいただきたいというところで、他市の例で言うと、健康ステーションのような形で、銀行の一角や、スーパーの空いているスペース等、日常生活の中で“健康”というキーワードが目に付いて、気軽に血圧測定ができるとか、自身の健康の見える化に繋がるような環境を整えていければと考えている。

先程の表彰制度の件もそうであるが、そちらもただ単に取り組んで欲しいということだとなかなかモチベーションの問題等あると思うので、例えば、の話だが、鎌倉市の表彰制度、表彰された企業は、信金等にご協力いただいて何かしらのローンの優遇があるとか、市役所で入札する時に優良企業は加点されるとか、是非積極的に取り組んでいただけるような、仕掛けを考えていきたいと思っている。

**委員長**

何か質問はあるか？

**委員**

せっかく産業医の先生方がいらっしゃるので、やはりトップに理解を持ってもらって産業医が、それを推し進めていくような形で行っていくのが良いと思う。

企業も同じで、一部の人は理解しているが、トップが理解していないという状態では難しいと思う。産業医を上手く活用していけるとよいと考える。

**委員**

例えば、組織の評価と個人の評価をあらかじめ作っておいて、個人に関することであればポイント10点が１円になったり、組織は点数がたまると市が広報できたりするなど、すでに実施している県もあるので、参考にしてほしい。

実は企業へのポイントというのは、どのように評価するのかと考えないと平等性に欠けると思うので、その辺りは十分に検討して、市民に結果的に還元できるものにしないといけないと思う。

あと、個人的な意見だが、かまくらヘルシーメニューは、絶対に良いと思う。

私の出身地の静岡県富士宮市は、焼きそばでブレイクして、たぶん日本人であれば皆知っているようなソウルフードとなった。鎌倉といえばこれというようなものになるととても良いと思う。

**委員長**

他に何かあるか？

**委員**

ちなみに、委員の皆様は健康経営をご理解いただけているのか。

当社は、まだ何となく行っているだけで、まだまだである。

とりあえず、簡単に当社の状況を説明すると、私は今、安全衛生というセクションにいて、やはり企業の中で今までは労働災害、会社の中で怪我をしてはいけないということを主体に置いていたが、今はそこではなく健康に働き続けられることを重視している。定期健康診断をきちんと受けなさいというのは法律で当たり前だが、それが終わった後に産業医の面談、二次健診に行きなさいということを行い、ゆくゆくはメタボの対象者を減らしていけるようにしている。

追求していくとやはり「健康は第一である。」ことをトップが認識して、それができてくると、健康になるし、労働災害も起こらないという。考え方も今逆転しているところで、今年度から鎌倉市も健康経営を行い始めたというところもある。

そういうところを踏まえて、国や市が認定した企業は、株価が上がった等のメリットがある。企業がそのように取り組むことにより、企業の従業員が健康になり、その地区の市民が健康になり、それができて行くと地区の周りの市民も健康になるという取り組みができたら良いというスタンスは、企業と市役所も同じである。

そのような活動があるので、ここから市役所がもっと積極的にアピールしても良いと思う。

**委員長**

私も実は、このような話があると気が付かなかった。本当は神奈川産業保健総合支援センターの担当で、そこで９月28日の健康経営に関するセミナーを行うので、そのパンフレットをお配りする。

例えば現在、企業の評価というのは収益だけではない、社会的貢献したかも含まれる。

しかも従業員の健康を守らない企業というのは、ほとんどアウトというか、そのような評判が立っただけでも、人は集まらないし、とある会社の産業医をしているが、少しでも働く環境が悪ければ、ほとんど従業員は辞めていく。

そして、募集しても大企業でも全然人が集まらない。要するに、そのような評判が立ってしまうのである。

特に中小企業程、労働者の健康を守らない企業は、まず収益が上がらないというのが大体、浸透しつつあるのではないかと思う。そのような本もたくさん出ている。会社を黒字にしたければ、従業員の健康を守らなければならない。そうしたら、みんなやる気が出てきて収益が上がる。

まさにこの健康経営というのは、実は会社の為でもある。もちろん従業員の為でもあるし、会社の収益を上げる為でもある。

そのような話を９月28日に行う。申込みは、神奈川産業支援センターのホームページからとなる。開港記念会館は200人しか入れないが、先週オープンしたばかりなので、まだ入れると思う。

**委員**

ひとつ宣伝をさせていただきたい。私は市民委員だが、医療生協かながわの理事をしている。医療生協で始めたことだが、健康チャレンジというものを毎年行っている。

健康チャレンジは、今は医療生協だけでなく、購買生協も加わって、全面的に行っているのだが、１ヶ月間・30日間、自分が決めた健康のテーマについて、それをやり通したかどうかというのをカレンダーに丸を付けていく。

その健康チャレンジは、このようなことを行うと良い・おすすめみたいなものを書きながら自分自身が作る、これは守って行こうというものを30日間続けて、上手くいっても、いかなくても、それをFAXで送ってくれた方には、ボールペン程度の粗品を贈るというものである。

たくさん印刷して、医療生協かながわとしてだけでも４万枚くらいは用意してある。

今、宣伝させていただくが、まだ現物ができていない。８月の半ば頃にでき上がるもので、10月11月が挑戦期間となっている。

それで、どなたでも、こどもでも学童クラブで行うとか、幼稚園が行うとか、子どもバージョンもあって、どなたでも挑戦できるので、その用紙を何かの機会に目に触れるかもしれないが、もし行っても良いというところがあれば医療生協かながわか、深沢中央診療所でも、電話していただければ、お届けする。是非活用して欲しい。

A３版が２つ折りになっているくらいの大きさで、それを半分に切ればFAXで送れるようになっている。

**委員長**

他に、どなたか意見はあるか。なければ、議題３について事務局から説明をお願いする。

**事務局**

資料のウォーキングマップ、健康づくり計画本編、健康づくり計画概要版、ヘルシーポイントのチラシ、未病センターのパンフレット等、配布可能である。必要であれば随時声をかけてほしい。

もう1つ、ささりんのイラストについて、委員の皆様には健康づくりに関するところで、是非ご利用いただければと思っている。例えば鎌倉歩け歩け協会でウォーキングマップにささりんのイラストをご利用いただいている。より多くのところで市民の方の目に触れるようにしていきたいと思っているので、チラシやポスターなど掲載できる機会があれば連絡がほしい。

時間の委員会の日程については、決まり次第連絡させていただく。

**委員長**

ただいまの件で、何か質問はないか。

それでは、次回の委員会の日程は決まり次第連絡する。

全体を通して、どなたかご意見・ご質問はあるか？

なければ、これで平成30年度　第１回鎌倉市健康づくり計画委員会を閉会する。

以上